

北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」
令和6年度（2024年度）授業研究セミナー

道東・公民 実施報告



令和6年12月3日（火）、北海道置戸高等学校を会場に「教科・科目における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）」「ICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」をテーマとして道東ブロック（公民）の授業研究セミナーを開催しました。道東ブロックの各管内から12名、全道からオンラインで8名、計20名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの「公共」の研究授業の実施に向け、道立高校教諭4名、道教委指導主事・研究研修主事3名から成る「授業研究チーム」を編制し、オンラインで学習指導案の検討を4回実施しました。検討会においては、「●●の見方・考え方を踏まえた思考を促すにはどのような工夫が必要か?」、「生徒が自身の思考の変容を理解するには、どのように授業を展開すればいいのか?」といった観点から協議が行われ、検討会を重ねるごとに指導案がブラッシュアップされていきました。



【研究授業(実践発表)】北海道置戸高等学校 杉山 拓哉 教諭

「公共」の単元「すべての人が輝く社会」において、「●●について思考する過程で、他者の意見を取り入れながら問いに対する答えに思考を深める」、「すべての人が輝ける社会の実現には何が必要かについて主体的に考え、日々の暮らしに生かそうとする」ことをねらいとして、研究授業を行いました。

この授業の中で、授業者は「すべての人が輝く社会とはどんな社会か?また、その社会の実現に向けて私たちには何ができるか?」という問いを示し、新聞記事等の参考資料を基に、生徒は個人で思考してから、考えた内容を踏まえたペアワークで、他者の意見を取り入れながら思考を深め、授業の最後にはFigJamでそれぞれの考えを全体で共有しました。



[学習指導案](#)



[ワークシート](#)

【研究協議】「公民科の授業における探究的な学びの在り方について」

授業中の生徒の学びの様子を記入した「授業記録シート」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びの実現の視点から、本時のねらい（目標）は達成できたか、また、本時のねらい（目標）を達成するための『問い』や資料は適切だったか」、「探究的な学びを実現するためには、どのような学習活動が必要か」を柱に、参加者はグループごとに協議を行いました。

協議では、参加者から「テーマは広がったが、教員のアプローチにより、生徒はイメージを持って主体的に取り組んでいた」、「ペアワークにおいて、他者の思考を踏まえた思考の変化が見られ、効果的であった」、「FigJamを使った意見の全体共有は有効であると感じた」、「次の授業の展開がカギになると思うので、是非見てみたいと思った」などの声が聞かれました。

研究協議終了後、まとめとして高校教育課高校教育指導係前野主査から、授業で育成する資質・能力を、各学校のスクール・ポリシーをふまえて設定することの重要性について、助言がありました。



【事後振り返り】

セミナーから1週間後に事後振り返りを実施し、本セミナーの成果の授業での活用や成果の普及等について、出席者4名で意見交流を行いました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 主体的な学び、効果的なICTの活用等、多くのことを学ぶ機会になった。「総合的な探究の時間」も含め、今後も教科等横断的な視点で教科の指導を意識していきたい。
- 管内の地歴公民科の先生方と交流できる非常に貴重な機会であり、当日の授業参観や研究協議を通して更に授業改善に対する知見を得ることができた。
- 協議を通じて、探究的な学びを実施するためにはどのようなことが必要なのかを理解することができた。今後の授業改善に生かしていきたい。
- 研究授業や研究協議を通し、新たな価値観を持つことができた。

【アンケートの結果（一部）】

- 1 今回の実践発表・研究授業・研究協議において、教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
 - ・大いに深まった 50% ・深まった 50%
- 2 今回のセミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。
 - ・大いに役立つ 50% ・役立つ 50%